

2-4 出荷売上管理

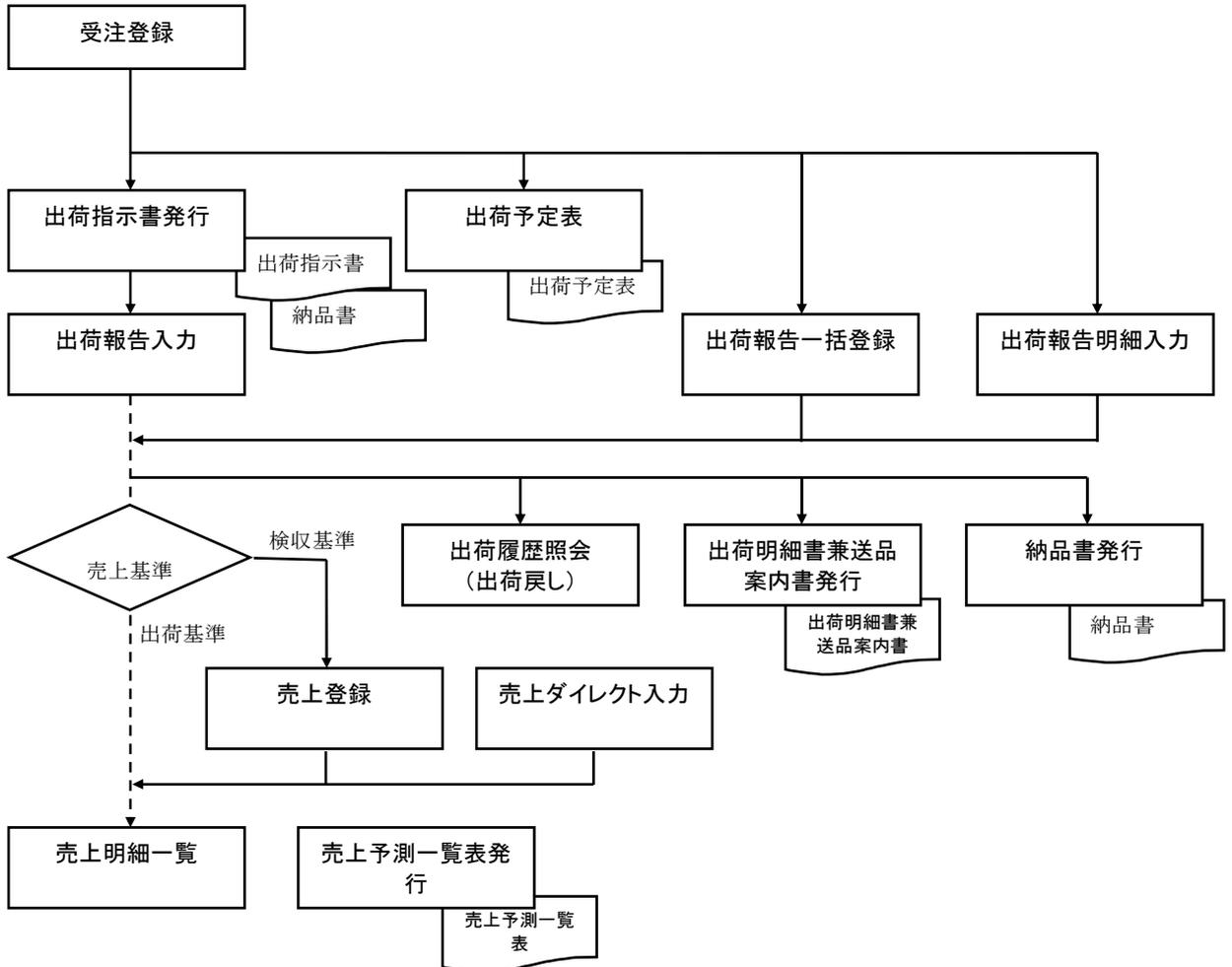
AToMsQubeの出荷管理では、受注マスターに登録された受注情報を基に、得意先納期から輸送リードタイム日数を遡った自社の稼働日を出荷予定日として出荷予定表や出荷指示書が発行されます。

※輸送リードタイムは得意先マスタで設定します。  
 出荷実績は、出荷指示書の出荷指示 NO バーコードをリーダーで読み込む事により行います。  
 出荷実績に基づき、送品案内書や納品書を発行することが出来ます。  
 また、出荷実績に基づき売上計上をすることが出来ます。

出荷売上管理には、下記の12個の機能があります。

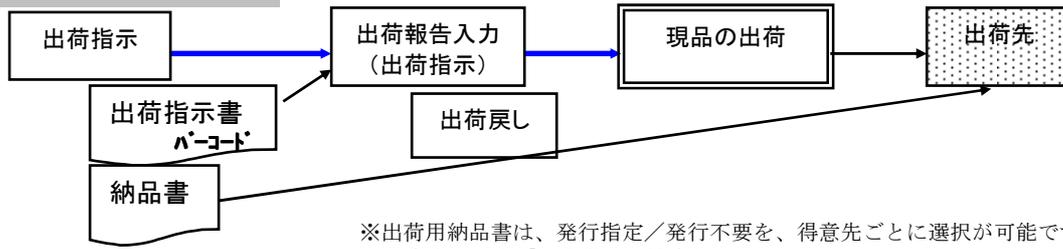
- 出荷指示書発行
- 出荷報告入力
- 出荷報告明細入力
- 出荷報告一括登録
- 出荷明細書兼送品案内書発行
- 納品書発行
- 出荷履歴照会
- 出荷予定表発行
- 売上登録
- 売上ダイレクト入力
- 売上明細一覧
- 売上予測一覧表発行

<全体の流れ>

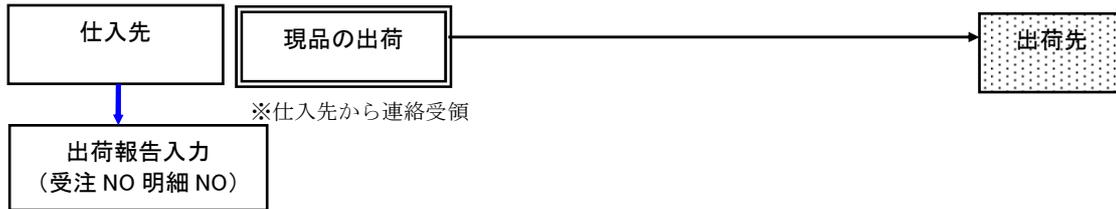


<出荷の方法>

A: 出荷指示による個別出荷

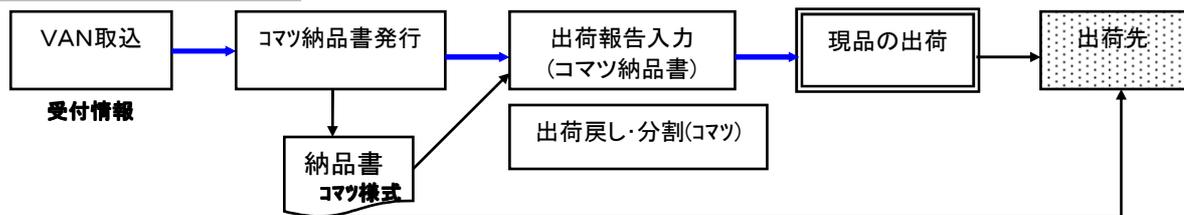


B: 得意先の受注情報(自社登録情報)による出荷



※仕入先からの直送先納品のオーダーのみ可能です。  
直送先納品オーダーは受注品目が内外製区分"P"のみ可能です。

C: コマツ納品書による出荷



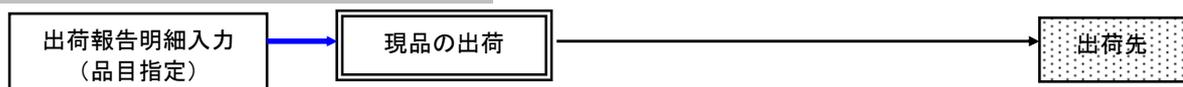
※納品書は、コマツ様式に限られます。

D: 得意先の受注情報(自社登録情報)による出荷



※1 得意先注文 NO、得意先行番で1明細データのみ有効です。  
複数明細データの受注データは使用不可です。

E: 得意先の受注情報(自社登録情報)による出荷



※品目指定による一覧表表示形式から出荷対象データを指定します。

## 出荷指示書発行

出荷予定日の範囲を指定して、出荷指示を行います。

出荷指示では、受注オーダに対し「出荷指示済み」として更新し、出荷指示NOを採番します。そして、多品一葉形式の出荷指示書と一品一葉形式の納品書を出力します。(納品書はオプション) また、CSV形式のファイルも同時に出力されます。

出荷指示書には、出荷NOがバーコード印刷され、出荷に使用します。

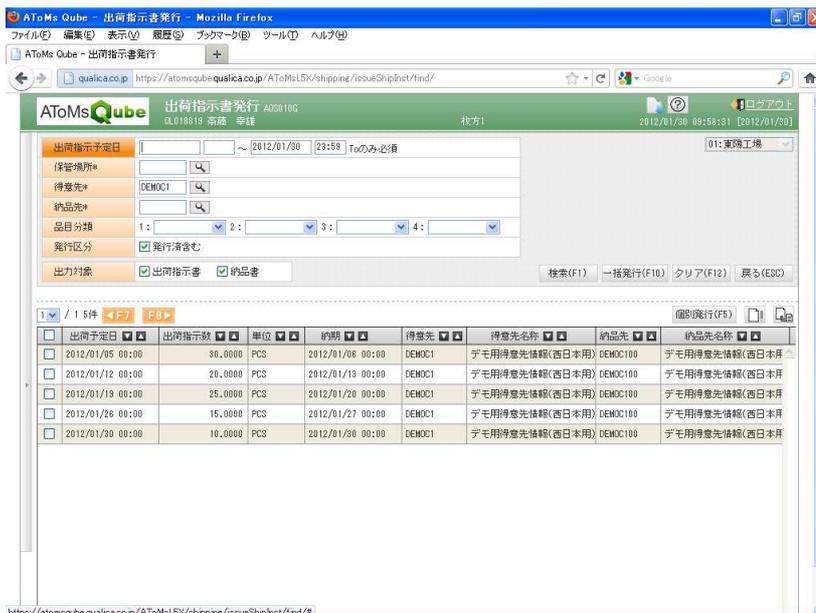
※納品書発行は、得意先マスタの「納品書」チェックかつ画面でのチェックが必要です。

レイアウトは**AToMsQube**標準様式になっていますので、

得意先指定の納品書を発行する必要がある場合は、カスタマイズとなります。

※出荷指示NOは不明になると画面では確認が出来ませんので、発行済みを指定して確認下さい。

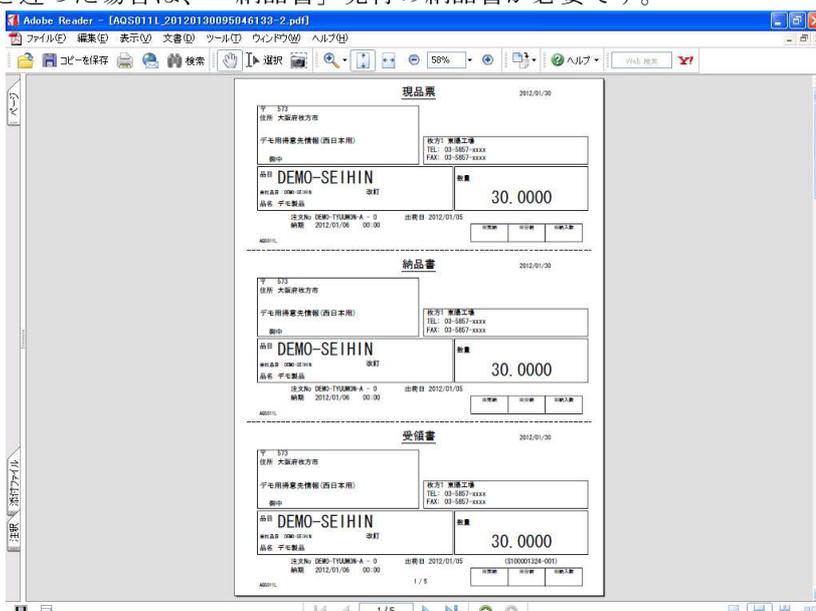
※受注品目がファントム品(品目区分"9")の場合は、出荷指示書及びCSVファイルには現品を表す下位構成の品目が表示されます。



納品書は得意先への出荷用現品票・納品書・受領書がセットになっています。

※出荷指示書発行の納品書に表示される出荷数量は予定数量となっています。

出荷実績の数量が予定数量と違った場合は、「納品書」発行の納品書が必要です。



## 出荷報告入力

出荷指示 NO 指定による出荷登録、受注 NO・明細 NO 指定による出荷登録、納品書 NO 指定による出荷登録、得意先・得意先注文 NO・得意先注文行番指定による出荷登録の 4 パターンがあります。

※出荷対象品目に在庫が存在していても、出荷登録を継続する事が可能です。

この場合は登録処理前に確認画面が表示されます。

※出荷対象品目がファントム品（品目区分“9”）の場合は、現品を表す下位構成の品目に在庫が無い場合は、ファントム品で受け払い情報は作成され在庫計上後に出荷される事になります。

※システムパラメータの「売上基準」が「出荷基準」となっている場合は、出荷登録時に売上データも自動作成を行いません。

0：検収基準

出荷登録時には、売上データは作成しません。

売上データを作成する場合は、売上登録処理が必要です。

1：出荷基準

出荷登録時に、売上データを自動作成します。

売上日は出荷日となります。

※出荷戻しを行なう場合は、「出荷履歴照会」の一覧表から対象データを指定します。

※出荷登録、出荷戻しを行なう場合は、バッチ処理「締め経理年月」処理が実行された経理年月以前の日付では処理が出来ませんので注意して下さい。

### 出荷指示 NO 指定

事前に出荷指示書発行を行なっている事が前提になります。

### 受注 NO・明細 NO 指定

受注オーダが直送先指定になっている事が前提になります。

### 納品書 NO 指定

客先納品書情報を事前に取り込んでいる事が前提になります。

※コマツオーダで同一品目・同一納期で荷姿単位に纏められている荷姿まとめオーダも対応可能となっています。

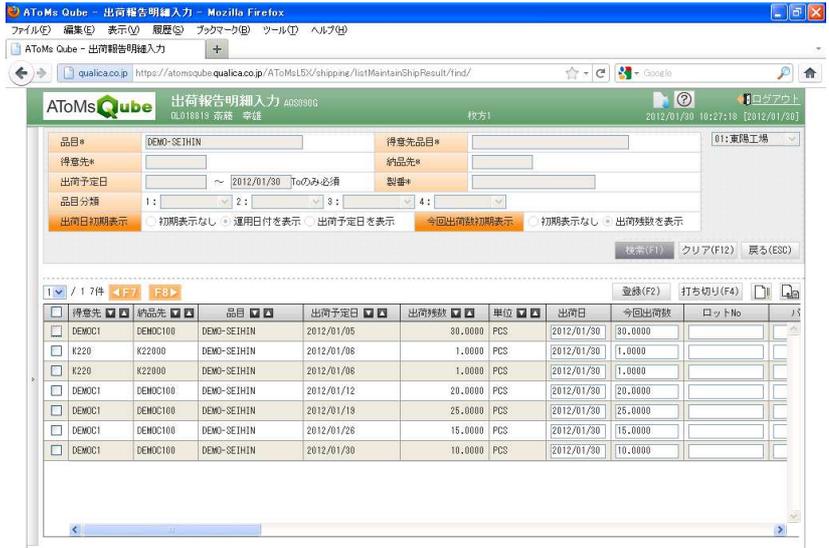
### 得意先注文 NO 指定

受注オーダが 1 明細データで登録されている事が前提になります。

|          |                   |            |                  |
|----------|-------------------|------------|------------------|
| 受注No     | S100000087        | 明細No       | 001              |
| 得意先      | DEMOC1 デモ用得意先     | 納品先        | DEMOC100 デモ用得意先  |
| 得意先注文No  | DEMO-TYUNON-1     | 行番         | 0                |
| 得意先品目    | DEMO-SEIHIN       | 改訂         |                  |
| 自社品目     | DEMO-SEIHIN デモ製品  |            |                  |
| 納期       | 2012/09/09 00:00  | 出荷予定日      | 2012/09/07 00:00 |
| 受注数      | 70 PCE            | 出荷済数       | 0 PCE            |
| 保管場所     | HRB10 HRB10(保管場所) | 製番         |                  |
| 出荷日      | 2012/11/19        | 出荷数        | 70 PCE           |
| 保管場所     | HRB10             | 保管場所名      | HRB10(保管場所)      |
| ロットNo    |                   | バレット       |                  |
| 便        |                   | 備考         |                  |
| B/L DATE |                   | INVOICE NO |                  |

### 出荷報告明細入力

品目指定を行ない、一覧表表示から出荷対象データを指定して出荷登録となります。  
この処理では「出荷報告」の様な前提条件は不要です。



### 出荷報告一括登録

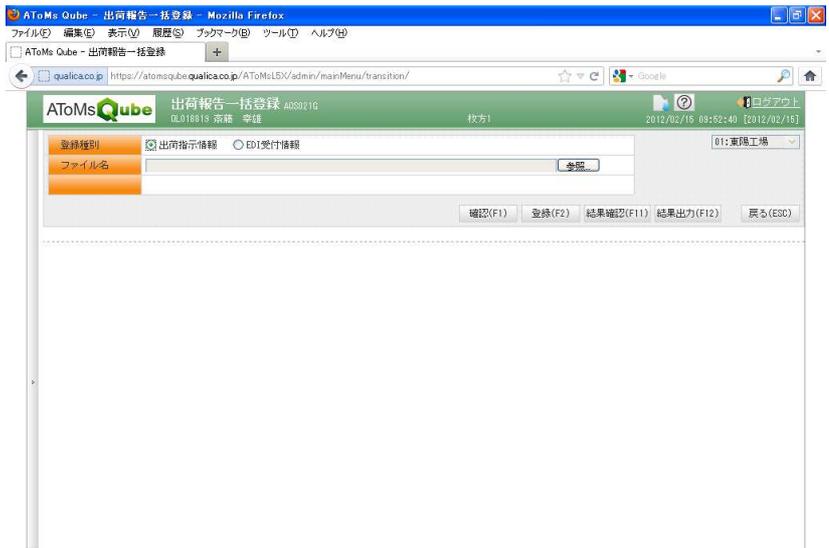
出荷登録には所定の CSV データで一括登録を行なう方法があります。  
出荷方法は出荷指示 NO 指定、納品書 NO 指定の 2 パターンです。  
前提条件はそれぞれ画面と同様の条件が必要になります。

CSV データにエラーが発生した場合はエラーなしのデータのみ登録となります。

※所定の CSV データを作成する EXCEL マクロを ATomsQube は提供しています。

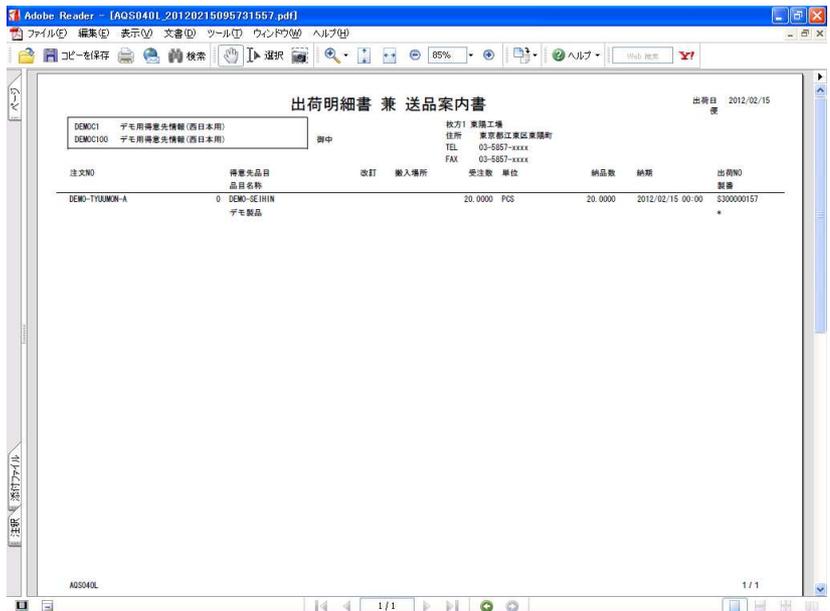
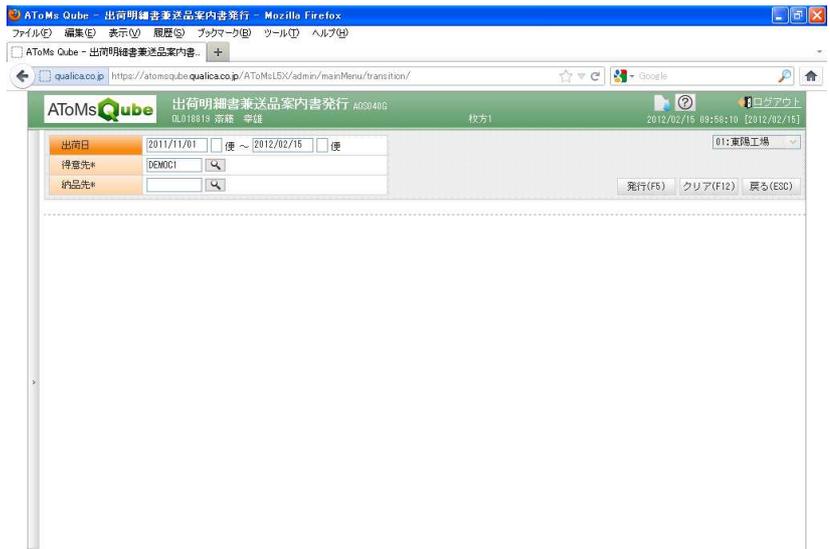
オンラインヘルプからダウンロードが出来ます。

※CSV レイアウトはオンラインヘルプを参照下さい。



### 出荷明細書兼送品案内書発行

出荷実績情報に基づいて、同一の納品先、出荷実績日、便でまとまって出力されます。

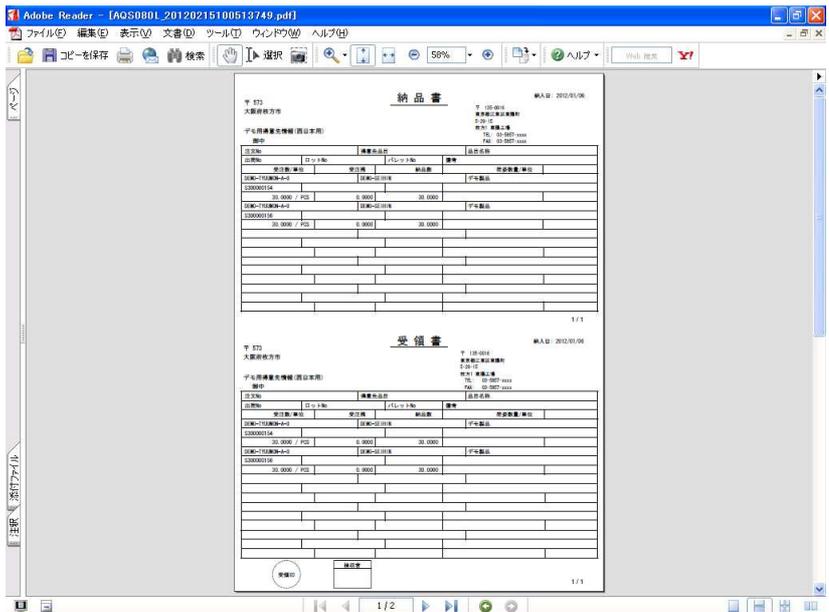
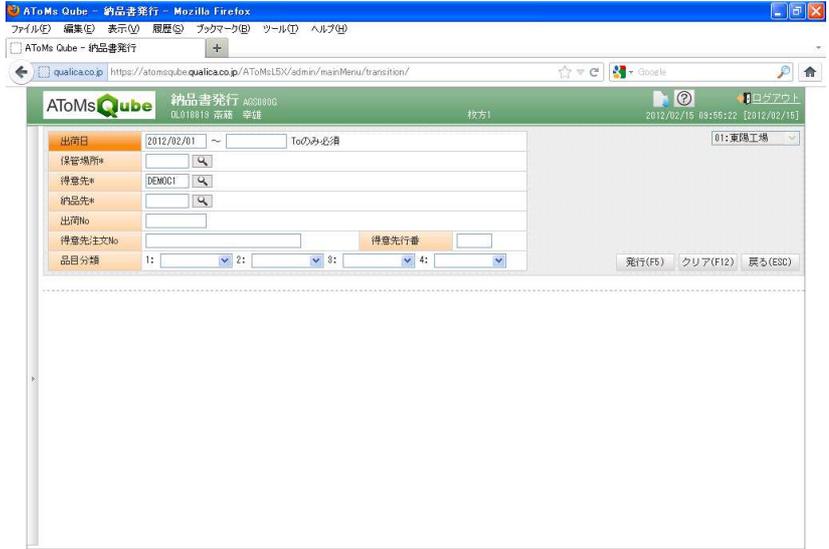


納品書発行

出荷実績情報に基づいて、出荷予定日単位に出力されます。

納品書は納品書・受領書がセットになって出力されます。

※出荷指示書発行時に発行される納品書と発行レイアウト、種類が違いますので注意して下さい。



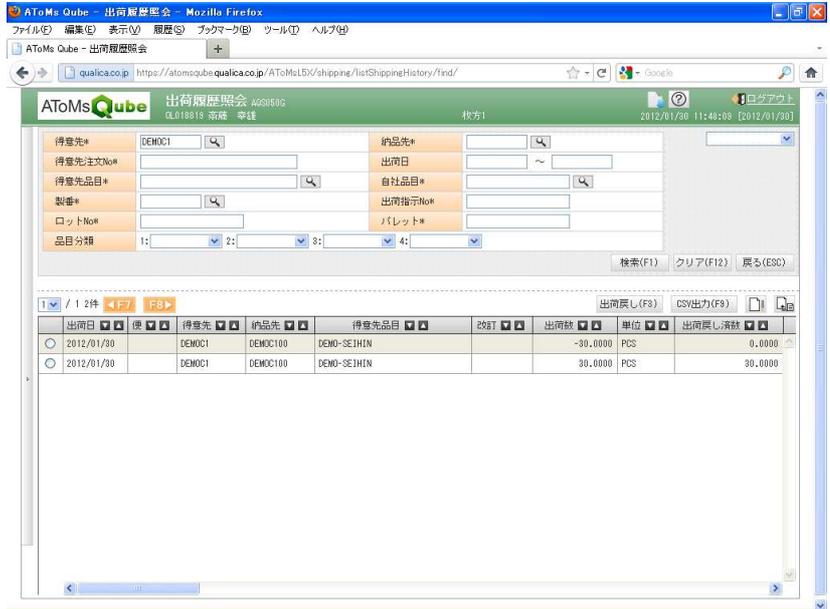
### 出荷履歴照会

出荷実績情報及び出荷戻し情報に基づいて、一覧表表示されます。

当一覧表画面から「出荷戻し」処理を行う事が出来ます。（出荷報告画面に遷移します）

※「出荷戻し」処理は、基本的に経理<math>\times</math>日より以前の日付分は不可ですが、システムパラメータの「売上戻し処理可能月」を設定した月数分だけ遡って行なう事が可能です。

（この考え方は出荷処理のみで、購買機能の検収処理にはありませんので注意下さい）



### 出荷予定表

出荷予定日の範囲を指定して、受注情報の内容から出荷予定表が出力されます。

また、CSV形式のファイルも同時に出力されます。

※範囲は20日間以内の指定となります。



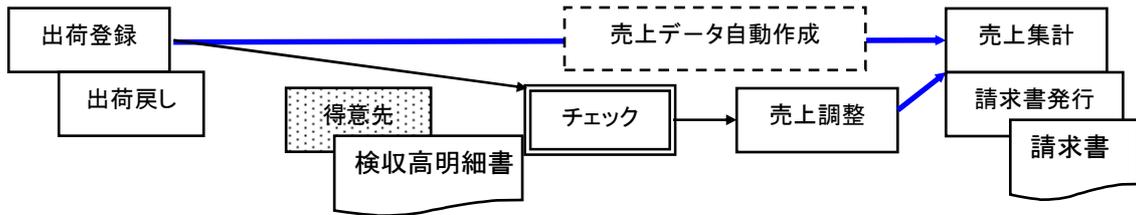
**AToMsQube**の売上管理では、出荷実績を基に、売上処理を行います。

出荷管理でも述べた通り、売上計上の方法として「出荷基準売上」と「検収基準売上」があります。どちらを選択するかは、システムパラメータ「出荷時売上登録設定」により設定します。「出荷＝売上」は出荷基準となり、出荷登録と同時に売上計上され、「出荷≠売上」は検収基準となり、出荷登録とは別に売上登録という処理を行い売上計上します。

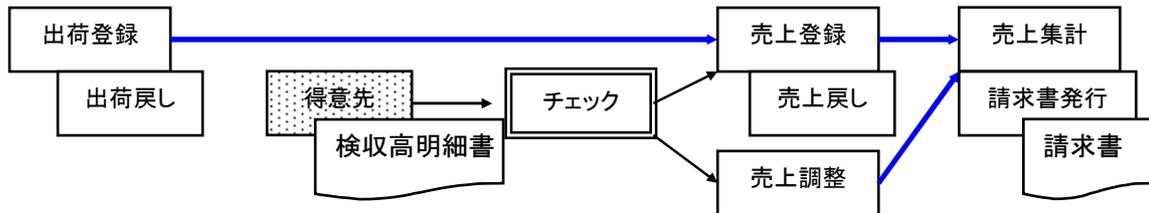
※売上登録の方法の種類と流れについては、下記に説明します。

また、売上管理の機能として、受注情報、受注見込情報からの売上予想集計があり、管理の充実と効率化を図ることができます。

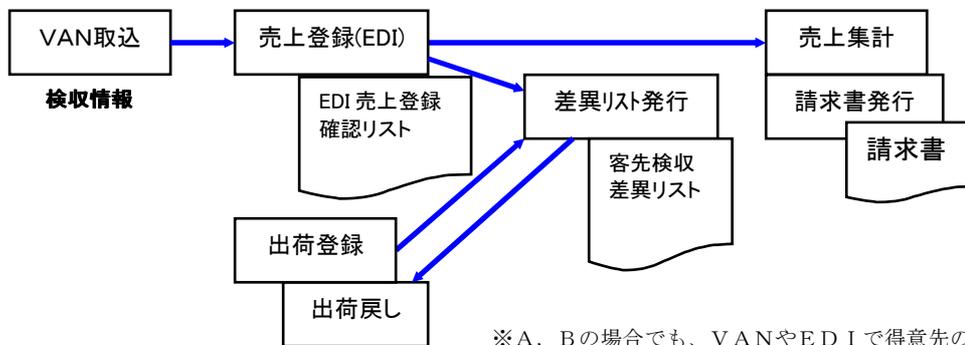
**A: 出荷基準「出荷＝売上」**



**B: 検収基準「出荷≠売上」かつ個別登録**



**C: 検収基準「出荷≠売上」かつEDI売上登録**



※A, Bの場合でも、VANやEDIで得意先の検収情報を提供されている場合は、客先検収差異リストを発行し、チェックが可能です。

## 売上登録

出荷実績を元に売上登録を行います。

得意先ごとに売上の対象範囲を選択し、出荷実績と単価、金額を確認します。単価の変更や値引をそれぞれ入力し、確認及び変更作業終了の後、登録処理を行います。

抽出データをCSVファイルとして出力が可能です。

※売上計上区分が「検収基準売上」のみ有効で「出荷基準売上」の場合は使用出来ません。

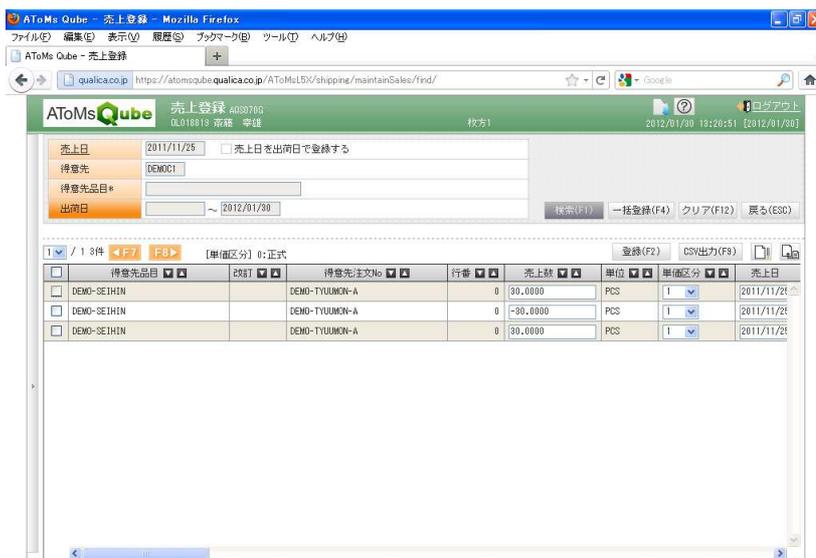
※標準的な使用法として、得意先より検収高明細書が送られてきた後、月次処理として売上登録処理を行います。その時の売上範囲は、客先の締め日に合わせられます。

※売上戻しを行なう場合は、「売上明細一覧」の一覧表から対象データを指定します。

※売上登録、売上戻しを行なう場合は、バッチ処理「締め経理年月」処理が実行された経理年月以前の日付では処理が出来ませんので注意して下さい。

[注意事項]

出荷基準の場合、出荷登録において売上登録されますが、その時は、自社の締め日で売上計上します。

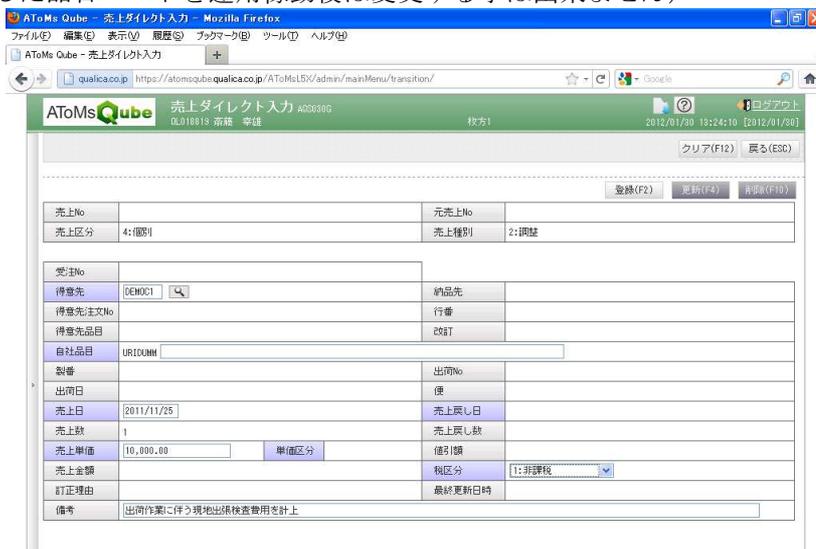


## 売上ダイレクト入力

売上ダイレクト入力では、出荷を伴わない売上の登録処理を行います。

例えば、前月度の訂正や、得意先での不良による補償費の登録に使用できます。

この場合の自社品目は定められた品目コードが表示され、その品目コードはシステムパラメータで設定する事になります。（設定した品目コードを運用稼働後は変更する事は出来ません）

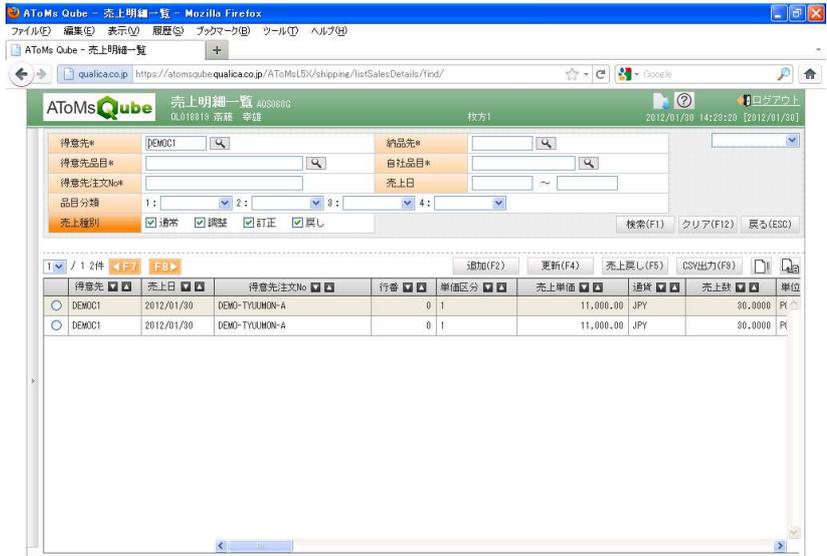


### 売上明細一覧

売上実績情報及び売上戻し情報に基づいて、一覧表表示されます。

当一覧表画面から「売上戻し」処理を行う事が出来ます。（売上ダイレクト入力画面に遷移します）

※「売上戻し」処理は、経理年月処理が完了している受注オーダーに関しては不可となります。



### 売上予測一覧表発行

売上予測一覧表では、出荷実績、受注情報を元に、売上の予測を一覧表に出力します。得意先や対象期間（当月を含む4ヶ月分）を指定して発行します。

- ・得意先、製品分類1別：PDF形式

また、得意先、品目明細別にCSV形式で出力されるパターンがあります。

この場合は、出荷実績、受注情報及び受注見込み情報が出力されます。

受注見込み情報は単価、金額項目は0で表示されます。

- ・得意先、品目明細別：CSV形式

